第18回 しまね景観賞

守り　創り　育てよう
ふるさと島根の景観

江津市立郷田小学校6年　野海知里「本町の町並み」

島　根　県

●表紙のご紹介

赤瓦の住宅･まちなみ絵画コンクール（島根県江津市）
最優秀賞　小学校高学年の部
「本町の町並み」
江津市立郷田小学校6年　野海知里

「赤瓦の住宅・まちなみ絵画コンクール」は、児童生徒の視点で赤瓦の色彩や住宅意匠、そして街なみを描くことにより赤瓦景観の素晴らしさを実感してもらい、また、教職員や保護者の方々にも赤瓦景観に対する関心を高めてもらうことを目的として島根県江津市が実施。

■対　　象／小学生および中学生
■課　　題／赤瓦の住宅などの建築物、赤瓦を主体にした街なみ、また山間地域などでの赤瓦のある風景など
■募集期間／平成21年11月　2日㈪～12月18日㈮
■審　　査／平成22年　1月21日㈭
小学校低学年、中学年及び高学年並びに中学校の4部門にわけて審査
■応募総数／148点
■表 彰 式／平成22年　3月　8日㈪

島根県知事
溝口善兵衛

はじめに

島根には、緑織りなす山々や変化に富んだ海岸線、日本海に浮かぶ島々などの美しい自然、人々の暮らしの中から創り出された農山漁村の風景、先人の知恵が受け継がれた歴史的なたたずまいなど、それぞれに個性豊かで特色のある地域の景観があり、今も大切に守り育てられています。

県では、こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り育むことを目的に平成３年に制定された「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づいて、様々な施策を進めております。

その一つである「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物、活動等を表彰し、快適に文化の薫り高い島根の景観を形成していくことを目的としています。平成５年の創設以来、今回を含め196件が受賞され、多くの県民の皆様に高い関心を寄せていただいております。

第18回となる今回は、大賞の「金言寺の茅葺屋根と大イチョウ」をはじめ、11件の建造物や活動などを表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、審査委員の皆様や本賞の趣旨に賛同しご応募いただきました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、島根の魅力ある景観の保全・創造に向けて取り組んで参りますので、一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成23年３月

しまね景観賞審査委員会
委員長
藤岡　大拙

選考総評

第18回を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、173通であった。近年は多くの応募があり、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、まず書類審査で20物件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い慎重に審議し、次の11件の建造物や活動等を選定した。

大賞は『金言寺の茅葺屋根と大イチョウ』である。奥出雲の山々に囲まれた茅葺きの寺庵と樹齢350年をこえる老大樹。散り敷く黄色い絨毯、水面に浮かぶさかさイチョウなど景観保全推進活動を展開している地元の取り組みが高く評価された。

優秀賞は５件である。「土木施設部門」から選ばれた『新しい神戸堰、神戸堰橋』は、神戸川の拡張工事に伴い設置されたもので、旧神戸堰のデザインの美しさと景観を継承し、神戸堰橋は大きな構造物ではあるが、デザインがシンプルなことで、新しい神戸堰と共に周辺の景観によく溶け込んでいる点が評価された。「公共建築物部門」から選ばれた『石見銀山世界遺産センター』は、地域にあるかつての木造建築物を偲ばせるよう計画され、かつての建物の大半が地域の素材で作られたように地場産業の育成にも貢献している点が評価された。「民間建築物部門」から選ばれた『匹見川の断崖に建つ家』は、古民家を活用しながら周囲の自然環境に溶け込むよう配慮された点が評価された。「活動・工作物・その他部門」からは、『都万地区　～屋那の松原と舟小屋～』と『「伝統芸能と光の祭典」都賀･長藤地域の取組み』が選ばれた。前者は、生活や産業から生み出された景観資源と自然的景観資源を保存する地元の取り組みが評価された。後者は、はびこる竹から竹灯籠をつくりだし、柔らかく幽幻な景観を創り出す活動が評価された。

奨励賞は５件である。「まち･みどり部門」からは、貴重な民俗文化財の技と魅力を伝える活動を展開されている『ヨズクハデ』と、樹齢百年以上にも及ぶ枝垂れ桜と江戸時代後期の面影をとどめる復元改修された家の美観が守られている『ふるさとおおち伝承館と前川桜』が選ばれた。「公共建築物部門」からは、山あいの静かな風景を保ち美しい景観を醸し出している『奥出雲　鉄の彫刻美術館』と、教育の場から地域の様々な活動の場として生まれかわった老朽化した建物を違和感なく、往時の姿でよみがえらせた『波積ふれあいホール』が選ばれた。「活動・工作物・その他部門」からは、厳しい自然環境で松が生育できる環境づくりに30年以上の長きにわたって取り組んでいる『京島の松』が選ばれた。

今後も、この「しまね景観賞」が魅力あふれる島根の景観づくりに寄与するとともに、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。

平成23年３月

■事業主体
金言寺の大イチョウを守る会（30戸）
■概　　要
比婆道後帝釈国定公園の吾妻山麓に一際どっしりと立つ樹齢350年の大樹。金言寺の茅葺屋根の本堂を背に金色に輝く黄葉、水面に浮かぶさかさイチョウ、幻想的なライトアップ、ふりそそぐ落葉の風情、敷きつめられた黄金のじゅうたんは息をのむ美しさ。この景観は、地域ぐるみの活動で守られている。

大賞　金言寺の茅葺屋根と大イチョウ

仁多郡奥出雲町大馬木

「こんな山奥にこんな美しい景観が」というのが率直な感想である。金言寺は奥出雲町の最奥部、大馬木にある。茅葺きの本堂の前に立てば、左右に重畳たる中国山脈の高い山並みが広がる。あまり広くない庭先に、亭々と天空にそびえる銀杏の老樹が、枝を四方に広げてそそり立つ。樹齢三百五十年という。私が訪れたのは晩秋の小春日和であった。万朶の黄葉は散り始め、舞い散る葉は茅葺きの屋根や庭一面に、黄色い絨毯を広げていた。「銀杏の実（ぎんなん）は臭いので、とりかたずけて、葉っぱだけ残しておきます」住職さんや地域の人々が話していた。石垣に囲まれた庭の下には、水のはられた田んぼがあり、樹影が逆さに宿っていた。黄葉の盛んな頃はライトアップもされ、巨樹は夜空に美しく浮かび上がるという。ただし、そのための器具は、毎朝早々に片付けて、人の目にはふれないようにするという。訪れる人々に対する関係者の心遣いが、いやというほど伝わってくる。本堂でいただいた一服の茶を喫すれば、はらはらと舞い落ちる黄葉に、限りなく心が安まる。晩秋の奥出雲の山々に囲まれた茅葺きの寺庵、その前庭に、はっとするほど鮮烈な黄葉の老大樹、そして散り敷く黄色い絨毯。まさに一幅の絵であった。

〈藤岡　大拙〉

優秀賞

土木施設部門

新しい神戸堰、神戸堰橋

出雲市下古志町

日本で唯一の多連アーチ堰―その美しさに感動

旧神戸堰は出雲平野の西部一帯のかんがい用水を確保するため、昭和３年に建設されました。近年、頻発している集中豪雨などの対策として、神戸川の拡張工事に伴い、旧神戸堰を撤去することになりました。旧神戸堰は、日本で唯一建設された多連アーチ堰で、堰からこぼれ落ちる流れをじっと見ているとその美しさには感動すら覚えます。旧神戸堰は、『日本の近代土木遺産―現存する重要な土木構造物2000選』（土木学会出版、2001）においても最重要のＡランクに分類されていました。土木学会や住民の強い要望もあり、この堰を土木遺産として残し、それを後世に引き継いでいきたいという思いから、５年近くの歳月を経て平成21年３月に新しい神戸堰が完成しました。この堰は、旧神戸堰のデザインの美しさと景観を継承しながら、さらに堰の両側にアユやサケの遡上や底生動物の移動を助けるために魚道を配置し、生物多様性にも配慮しています。また、神戸堰橋は大きな構造物ではありますが、デザインがシンプルなことで、新しい神戸堰と共に周辺の景観によく溶け込んでおり、これからも地域住民の皆さんに愛され続けることでありましょう。

〈荒尾　慎司〉

■事業主体／国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
■設　　計／株式会社建設技術研究所
■施 工 者／奥村組・大日本土木特定建設工事共同企業体（神戸堰本体）
三井住友建設株式会社（神戸堰橋）
■概　　要／**【神戸堰本体】**堰形式：可動堰（鋼製起伏ゲート）、可動堰高：h=3.05m、ゲート純径間長：4径間・39.0m/径間、アーチ：h=1.50m、魚道：〈右岸〉斜路式・斜隔壁〈左岸〉斜路式・アイスハーバー式、堰（橋梁）長：293.4m ※旧神戸堰が美しいアーチ形状であったことから、減勢工下流へアーチ形状を復元。
【神戸堰橋】全幅：10.75m、橋梁形式：PC6径間連続箱桁橋 ※平成21年3月道路供用開始

優秀賞

公共建築物部門

石見銀山世界遺産センター

大田市大森町

■事業主体／大田市
■設　　計／株式会社三谷設計
■施 工 者／株式会社堀工務店（ガイダンス棟）
株式会社はたの産業（展示棟・収蔵体験棟）
■概　　要／【ガイダンス棟】
木造瓦葺き平屋建て 763.47㎡(776.09㎡)
【展示棟】
RC造瓦葺き一部2階建て 720.69㎡(668.98㎡)
【収蔵体験棟】
RC造瓦葺き一部2階建て 477.53㎡(334.94㎡)
平成21年2月竣工

石見銀山は、平成19年７月２日世界遺産に登録された。銀鉱山の貴重な遺産として、世界からの来訪者を迎えるための様々な整備が行われていた渦中の出来事であった。

世界遺産センターもそうした整備の中枢施設で平成21年３月からフルオープンした。現在は登録前後の来客数より幾分減って落ち着いた景観を取り戻しつつあるようである。

当施設の計画において景観に配慮することは、最も重視しなければならない事項で、バッファゾーンとはいえ、史跡地内にあるという考えで勧めなければならないのは至極当然であろう。

建物の規模については、大きくならないようにガイダンス棟、展示棟、収蔵体験棟の３つの棟に分けて考えられた。基本的なデザインは、地域にあるかつての木造建築物を偲ばせるように、切り妻屋根で石州瓦を葺き、外壁は土壁風の仕上げで木製建具を使うなどの配慮がなされたようだ。和風建築では、瓦屋根は重要で建物を特徴づける大きな要素である。ここではかつての窯変の斑を自然な形で表現するに努め４色で混ぜ葺きされている。外構でも市内温泉津町の福光石や同じく大屋町産の花崗岩などを多用するなど、かつての建物の大半が地域の素材で作られたように地場産業の育成にも貢献している施設である。

〈渡部　孝幸〉

■事業主体／藤山　浩・藤山三恵子
■設　　計／有限会社万設計
■施 工 者／有限会社住宅産業
■概　　要／用　　途：専用住宅・延面積：195.53㎡
（1階：140.86㎡：2階　54.67㎡）
工事種別：新築（一部古材使用）
構　　造：木造2階建

民間建築物部門

優秀賞

匹見川の断崖に建つ家

益田市隅村町

昨年、益田市の依頼で鏝絵ツアーを３回行った。今年の受賞物件は、この見学ルートで鏝絵が散見される地域にあり工事中から気になっていた建物である。

清流日本一といわれる匹見川が真下を流れる。高津川と合流する同市横田町から５分ほど走った川向こうの断崖に遠望できる。ちょうど鏝絵の見学で訪れたお宅の土蔵から真っ正面に見えるので見学者からも話題になっていた。

はからずも、今回この建物を見る機会ができたことに不思議な縁を感じた。聞くところによると、施主はこの地に建てることを10年前からの念願であったそうだ。岩山である土地を買い求めて整地することも苦ではなかった。この景勝地に建て住むことの期待と喜びが大きかったようだ。工業製品で建てることを嫌った。建具は木製硝子戸を用い、近くで解体された古民家の大黒柱や梁組を居間に再用した。また、外装には、厚さ30mmの杉板を現場で焼いて使ったそうだ。さらに、殺菌作用に加えて二酸化炭素で硬化・吸収する漆喰壁が内・外の壁に用いられている。

かつての古民家を建ててきた知恵を存分に活かすことに、施主と設計者の思いが通じ合い、それに応える施工者との協力体制はうらやましい限りである。景観もさることながら、作りあげた方々の心意気にも賞を差し上げたい。

〈渡部　孝幸〉

優秀賞

活動・工作物・その他部門

都万地区 ～屋那の松原と舟小屋～

隠岐郡隠岐の島町都万

■事業主体／下田環境保全組合・隠岐の島町
■概　　要／【屋那の松原】
平成21年3月：松くい虫耐性松苗植樹（50本）
下田環境保全組合・都万小学校児童
平成22年3月：松くい虫耐性松苗植樹（450本）
下田環境保全組合・都万小学校児童・隠岐水産高等学校生徒
【屋那の船小屋】
昭和62年：大型農道建設による旧船小屋の立ち退きにあわせ旧都万村が移転・改築を行う。
平成　8年：杉皮葺屋根の葺き替え
平成21年：杉皮葺屋根の葺き替え及び腐食・老朽箇所の補修

隠岐島後を西郷港から西に車で約30分、海岸沿いに「日本の白砂青松百選」に選ばれた屋那の松原を背景にした舟小屋群が見えてくる。

海岸線に約20棟の舟小屋が一直線に並び特徴的な杉皮葺きに石置き屋根をもつ。風雨などから小型の木造船を守るもので、昭和の終わりに建て替えられたという。整然と建ち並ぶ姿からは漁村風情が漂い、島民だけでなく観光客にも人気がある。

そして、屋那の松原。海岸地帯に樹齢およそ300年、約200本の黒松の林がある。江戸から明治まで続いた新田開発のための堤防に、防風、防潮を目的として黒松を植えたことがその始まりとされる。

しかし、近年、地域の人たちを見守り、やすらぎを与えてくれた松林に松くい虫による被害が広がってきたという。地域の人たちは、これまで年数回の周辺清掃の保全活動に加え、地域の子どもたちを含めた植樹活動を始めた。こうした活動ひとつひとつが、新しい「屋那の松原」の生長とともに、地域に住まう人たち、そしてこれから生まれてくる子どもたち何世代にもわたり地域を守り続ける想いを育んでいく。

そして、こうした景観に対する活動の輪が広がっていくことを願う。

〈西野　賢治〉

優秀賞

活動・工作物・その他部門

「伝統芸能と光の祭典」都賀・長藤地域の取組み

邑智郡美郷町都賀本郷

晩秋のにび色の陽ざしの中、美郷町、松尾山八幡宮附近はひっそり静まりかえって何かさびしい町だった。町の職員の方々の話を聞くに及んで、そのイベントを成立させた努力、熱意に先ずは敬意を表したい。そもそもは、はびこる竹や仏壇で使用したローソクの残り等含めて地域資源を観光イベントにと実証事業のテーマとし住民を巻き込んでの取組みのスタートである。過疎化、老齢化の中三千本からの竹灯籠を伐採加工の労力は並大抵のものではない。地域の老壮若、入りまじっての仕事は住んでいる土地が活気づくことへの希望と熱い想いだ、そしてそれは八幡宮の例大祭に合せたイベントに向かっていっきに花開く、日暮れと共に150メートルの参道の両側、境内の周囲に竹灯籠の柔らかな灯は幽幻な美を現出し、勇壮な神楽の舞やお囃子も一体に溶け込ませ、県内外の人々、帰省するようになった若者達を別世界に引き込んで行く。なんと感動的な光景だろう。皆、この一瞬にすべてが報われたと思うであろう。さて使い終えた竹は数年は使えるよう燻竹化し、一部は竹炭化、ウッドチップで有機肥料にして行く方向である（全体の竹林も含む）。しかしイベントと竹利用を定着継続させて行くにはさらに多方面に向け取組みが必要と思われる。この美しい感動的な取組みが永続することを願って止まない。　〈山谷　裕子〉

■事業主体／都賀・長藤地域協議会

■概　　要／里山に蔓延る竹を利用して観光資源に変えようと、住民が竹灯籠約3,000本を製作。地元神社の秋期例大祭に併せ参道や神楽殿周辺などに竹灯籠を並べ、幻想的な光の中で、住民は夜更けまで石見神楽の上演を楽しむ。平成20年開始以来、来場者も年々増加し、長年途絶えていた露店も復活。昔の村祭りのような賑わいの風景が蘇ったと地域住民は喜んでいる。

奨励賞

まち・みどり部門

ヨズクハデ

大田市温泉津町西田

■事業主体／西田ヨズクハデ保存会
■概　　要／棚田枚数約300枚・約10ha
温泉津町西田地区（60戸）には、全国でもここだけに伝わる、稲ハデを作る技術がある。「ヨズクハデ」といわれ、稲ハデの姿が、羽を休めたヨズク（この地方の方言で、フクロウをさすといわれている）に似ていることから、このように呼ばれる。高さ約5メートル、一基のハデに稲束500束、約5俵分が架けられ、秋の風物詩として、石見銀山街道の棚田景観となっている。

大田市温泉津町湯里の西田地区に古くから伝わる、独特な形状をした「ハデ」（稲架）である。「ヨズク」とは、フクロウを指す方言といわれており、四角錘の骨組みに稲をかけたユニークな形をフクロウに見立ててこう呼ばれている。かつては近隣地区を含めて多数見られたものであるが、現在では西田地区のみに残されているという大変貴重な民俗文化財である。

伝承によると、強風が吹くたびに「ハデ」が倒れることに困っていた土地の人々に、地元の神社の祭神が魚網の干し方を教えたことがその起源であるという。実際に安定感のある形状であり、横風に強いという特徴がある。

現在、その製作技術は、平成16年に結成された「西田ヨズクハデ保存会」（会員20名）に受け継がれている。保存会では、子供たちにも製作を体験してもらう機会を設けるなど、「ヨズクハデ」の技と魅力を伝える活動を展開されているが、今後に向けて、後継者問題が大きな課題であると伺った。

往時は、石見銀山と沖泊港を結ぶ街道の宿場町として栄えた西田地区。「ヨズクハデ」が立ち並ぶ風景は、末永く守り伝えたい、銀山街道の秋の風物詩である。　〈八田　典子〉

奨励賞

まち・みどり部門

ふるさとおおち伝承館と前川桜

邑智郡美郷町九日市

たおやかな枝垂れ桜と江戸時代後期の面影をとどめる家。組み合わせの妙趣とでも言おうか、互いに引き立てあいながら石垣の上に立つ。背は里山、前はかつての銀山街道だ。ここ美郷町九日市は、大森から尾道へと銀を運ぶ途中、一泊目の宿場だったところという。

桜の枝が道幅の半ばを越えて広がる。樹齢は百年以上にも及ぶそうだ。花の天幕の下、仰ぎ見る美しさときたらそりゃあ筆舌に尽くしがたい、と地元の人々が誇らしげに話す。

前川家は1827年に建てられ、1885年この地に移築された。大正時代中頃から40数年間は薬の販売や麹の製造をしていたらしい。土地と建物の寄贈が2001年。町は復元改修し、翌年、昔の生活や農耕の道具などを展示する空間として生まれ変わらせた。

1967年まで屋根は栗の木をそいで葺き、石を置いた通称「石屋根」だったそうだ。が、再現する技術は絶え、惜しいかな、いまの屋根はフッ素樹脂鋼板。黒い。赤瓦の中にあっては異質だけれど、それがまた淡い花色との対比鮮明で、桜によく似合うのだという。

分かちがたい樹木と家とが醸すゆるりとした風情。こんな景観があるから…。思わず業平の「のどけからまし」の歌が浮かんだ。

〈伊藤ユキ子〉

■事業主体／美郷町教育委員会
■概　　要／文政10年（1827）に建築された井戸谷村（現飯南町）の前川家住宅を明治18年に現在地に移築。江戸時代後期の面影を残す建物で、寄贈を受けた町が平成14年度に「ふるさとおおち伝承館」として整備。庭先にあるしだれ桜は樹齢100年を超え、春になると見事な花を咲かせ、訪れる人を魅了する。

奨励賞

公共建築物部門

奥出雲 鉄の彫刻美術館

仁多郡奥出雲町八川

■事業主体／奥出雲町
■設　　計／株式会社小草建築設計事務所
■施 工 者／株式会社安部建設
■概　　要／構　　造：S造一部RC造・平屋建
建築面積：1,198.35㎡
延床面積：1,070.78㎡
工事完了：平成21年3月

この美術館は奥出雲町のループ橋を望む位置にあり、平成21年に完成した。

中国山脈と周辺一帯の森林に包まれた恵まれた空間は贅沢そのもの。

その中心にある。建物のボリューム感は大きくもなく程よく控えめで二棟からなる屋根の勾配も穏やかな線で気持良いプロポーションを作り出している。

建築物全体は落ち着いたメタル色を基調に押さえてあり、時折見え隠れするループ橋の深紅が愛らしい。

アプローチから見る鉄の抽象彫刻とモダンなアーチとも門ともとれる直線の造形物が成功しているように思う。少し大きめであるが、相反するもの相異する二つのものを連結させると同時に結界の役目を効果的に果し、そして素材そのものが持つ色とテクスチャーが生かされている。

全体に山あいの静かな風景を保ち美しい景観を醸し出している。

一般に、個人作家の美術館はとかくマンネリになりがちでリピートに繋がりにくい。そのためのカフェとレストランそして物販の併設であろうが、鉄の彫刻美術館であることを大切にしていただきたい。

〈平本　映子〉

奨励賞

公共建築物部門

波積ふれあいホール

江津市波積町

長らく地域の教育の要として親しまれ大切にされてきた、旧波積小学校の講堂を活かした建物である。

波積小学校の歴史は、明治５年に寺院の禅堂を仮校舎として開校されたことに始まる。昭和９年には、地区を挙げての大事業として「昭和モダニズム様式」の校舎と講堂が新築され、以来、「地域にとって計り知れない希望と活力を与える存在」(旧波積小学校講堂老朽度調査業務報告書より)であったという。その後、昭和55年に４小学校の統合による江津東小学校の開校に伴い閉校となり、校舎棟は解体された。残された講堂は地域の様々な活動の場として活用されてきたが、老朽化が進んだため、平成20年に補強・改修工事が行われ、今に至る。

竣工当時（昭和９年）の写真と比べても、形状はほとんどそのままである。色については不詳とのことであるが、落ち着いた色合いの赤瓦葺きの屋根の下、チョコレート色の板張りの外壁に、やや青緑がかった白色の窓枠が小気味よいリズムを作って並んでいる様子は、違和感なく、往時の姿を彷彿させる。防球ネットが密着するように設置されていることが、景観上、惜しまれるが、地域のシンボルとしてこれからも愛されていくであろう貴重な建造物である。

〈八田　典子〉

■事業主体／江津市
■設　　計／株式会社尾川建築設計事務所
■施 工 者／有限会社黒川工務所
■概　　要／波積ふれあいホールは、昭和9年4月に旧波積小学校講堂として新築され、昭和55年3月の江津東小学校への統合まで学校として使用されていた。その後は一部外部倉庫を増築され現在も地域の人々の郷土芸能活動などの拠点として活用されている。　昭和モダニズム様式で、石州赤瓦切妻屋根、下見板張り外壁（一部漆喰壁）、窓枠と建具は白色系塗装、根回りは洗出し仕上、装飾格子の床下換気口などである。内部は、腰壁が板張りで上部壁は漆喰仕上げ、天井は格天井で中央部には大きな菱形装飾が漆喰で施されている。
木造平屋建　建築面積：445.28㎡　延床面積：437.24㎡

奨励賞

活動・工作物・その他部門

京島の松

松江市八束町入江

■事業主体／入江生産森林組合
■概　　要／京島の維持保全のため、春に松の消毒、夏に除草、冬に松のコモ巻き（11月…コモがけ、3月…コモはずし）等の作業を行っている。京島は、もともと岩であるため松が育ちにくい環境であるが、組合員が定期的に土を搬入するなどの活動を行い、松が育つ環境をつくりだしている。また、専門家による松の診断を年2回行っている。

松江市側の大海碕鼻から堤防道路を渡って八束町入江に入ると左手沖合200ｍぐらいのところに見えてくる島が京島だ。大きさは宍道湖に浮かぶ嫁が島と同じぐらいでそこには古くから海の守り神が祀られていて、佇まいは嫁が島によく似ている。近くには廃船が数隻放置されているが、何故かその風情が郷愁を呼ぶのか京島とともに風景画や撮影スポットとなっていると聞く。

八束町大根島は「昭和の国引き」と呼ばれた大事業中海干拓によって陸続きになろうとしていたが、中止が決まって今年でちょうど10年になる。もし干拓が行われていたとしたら、今頃はこのような風景はもはや見ることは出来なかったかもしれない。

さらに言えば人の手が加わってきていなければ、でもある。この島は入江地区の所有地で地区の森林組合の皆さんが毎年欠かすことなく３、４回島に渡り、松の菰巻きから草刈り、土石の搬入、枯れた松の伐採、新たな植樹などの活動を行い、冠水、浸食、塩害等に悩まされながらも長い間にわたって京島の景観を守り続けている。

陸地化の免れた折角の景観を厳しい自然環境のなかで守り続けることは決して容易なことではなくまさに評価すべきことであろう。

〈小草　伸春〉

第18回 しまね景観賞

大　賞

1 金言寺の茅葺屋根と大イチョウ
■事業主体／金言寺の大イチョウを守る会

優　秀　賞

土木施設部門
2 新しい神戸堰、神戸堰橋
■事業主体／国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

公共建築物部門
3 石見銀山世界遺産センター
■事業主体／大田市

民間建築物部門
4 匹見川の断崖に建つ家
■事業主体／藤山　浩・藤山三恵子

活動・工作物・その他部門
5 都万地区 ～屋那の松原と舟小屋～
■事業主体／下田環境保全組合・隠岐の島町

活動・工作物・その他部門
6 「伝統芸能と光の祭典」都賀・長藤地域の取組み
■事業主体／都賀・長藤地域協議会

奨　励　賞

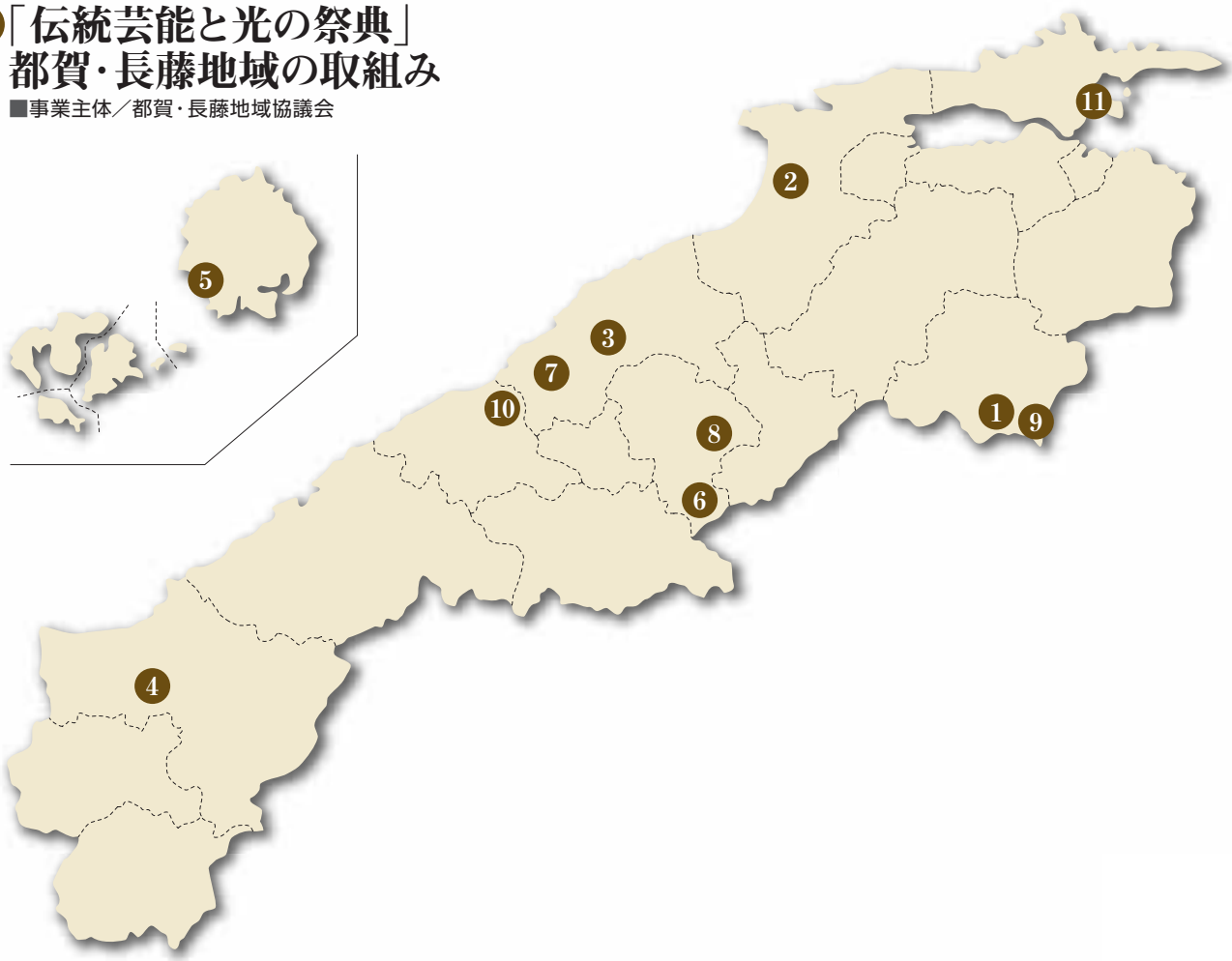
まち・みどり部門
7 ヨズクハデ
■事業主体／西田ヨズクハデ保存会

まち・みどり部門
8 ふるさとおおち伝承館と前川桜
■事業主体／美郷町教育委員会

公共建築物部門
9 奥出雲 鉄の彫刻美術館
■事業主体／奥出雲町

公共建築物部門
10 波積ふれあいホール
■事業主体／江津市

活動・工作物・その他部門
11 京島の松
■事業主体／入江生産森林組合



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

土木工学　荒尾　慎司
独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
環境・建設工学科教授

作　家　伊藤ユキ子
紀行作家

建築業界　小草　伸春
㈱小草建築設計事務所代表取締役

行　政　西野　賢治
島根県土木部長

芸術学　八田　典子
公立大学法人島根県立大学
総合政策学部教授

デザイン　平本　映子
松江生活デザイン研究所主宰

○歴史学　藤岡　大拙
島根県立大学短期大学部名誉教授

美　術　山谷　裕子
画家

建築学　渡部　孝幸
大田市町並みアドバイザー

敬称略/50音順　○印は審査委員長

審査経過

●募集期間
～平成22年８月31日㈫

●募集結果
応募総数　173通
応募物件　164件

●第１次審査（平成22年９月30日～10月14日）
応募書類、写真をもとに第２次審査の対象となる20件を選定

●第2次審査（平成22年11月８日・９日・12日）
選出された20物件について現地審査及び最終審査会を行い、11物件を選定

●表彰式（平成23年３月３日）
受賞物件の事業主体、設計者及び施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈

第18回 しまね景観賞第1次審査結果

部　　門	名　　称	所在地
まち・みどり	金言寺の茅葺屋根と大イチョウ	奥出雲町
	三隅公園のツツジ	浜田市
	ヨズクハデ	大田市
	西ノ島の牧畑	西ノ島町
	黒瓦のまち「宅野」	大田市
	ふるさとおおち伝承館と前川桜	美郷町
土木施設	西郷漁港　～船だまりと漁港整備事業～	隠岐の島町
	新しい神戸堰、神戸堰橋	出雲市
公共建築物	安来市立広瀬中学校	安来市
	旧江津町役場	江津市
	波積ふれあいホール	江津市
	石見銀山世界遺産センター	大田市
	奥出雲　鉄の彫刻美術館	奥出雲町
民間建築物	匹見川の断崖に建つ家	益田市
	室山農園	雲南市
活動・工作物・その他	イズモコバイモ自生地の保存活動	川本町
	花の谷しゃくなげパーク	美郷町
	「伝統芸能と光の祭典」都賀・長藤地域の取組み	美郷町
	都万地区　～屋那の松原と舟小屋～	隠岐の島町
	京島の松	松江市

シマネスク・島根

平成23年3月
企画・編集／島根県土木部都市計画課